

元気すぎる  
くらいが、いい。

大田 笑  
OHTA  
WARA  
CITY 市

笑顔があふれるまち。

**OHTAWARA**  
**CONTENTS BOOK**

栃木県大田原市情報

2019.4.1版

# 目次

今さら聞けない・・・大田原市とは??

大田原市のあらまし

大田原市へのアクセス

## OHTAWARA CONTENTS

NATURE 自然 (P4)

EXPERIENCE 体験・学び (P6)

FOOD 食 (P8)

LIFE 暮らし (P10)

EVENT お祭り・イベント (P12)

HISTORY 歴史・文化 (P14)

INFORMATION 情報発信 (P16)

# 今さら聞けない・・・大田原市とは？



平成17（2005）年10月、大田原市、湯津上村、黒羽町が合併し、現在の「大田原市」になりました。

源平屋島の戦いで扇の的を射抜いた那須与一公ゆかりの地として知られる「大田原」地区。

国指定文化財の那須国造碑や侍塚古墳がある歴史的地区「湯津上」地区。

俳聖松尾芭蕉が「おくのほそ道」の道中で最も長く滞在した地である「黒羽」地区。

大田原市は、栃木県の北東部に位置し、東京圏から150キロメートル圏内にあり、自然災害が少なく、地震に強い地盤と調和のとれた自然環境、豊富な工業用水などの立地環境を活かし、田園工業都市として発展しています。

また、日本でも有数の鮎の漁獲量を誇る清流「那珂川」、市の中心部を流れる「蛇尾川」、田畑を潤す「箒川」に囲まれた、那須野が原の扇状地にあたり、八溝山系の美しい山並みが連なっています。

大田原の名前は「大俵」に由来し、その名の通り昔から米を始めとする農業が盛んな地域で、耕種農業や繁殖・肥育、酪農を営む畜産業の農家さんも多くいます。

都会にはない水と緑、豊かな大地。そして、四季折々の自然。田舎にはない便利さ、ON（働いている時間）とOFF（休息の時間）のバランスの良さが魅力の栃木県大田原市です。

## 大田笑市プロジェクト

「笑顔を生み出す想像力が人を幸せにする」をプロモーションコンセプトとして、本市の魅力を全国に発信し、単なる観光だけではなく、本市での生活を楽しんでもらえる移住・定住促進プロモーションを行っています。



那須与一宗隆をモデルとしたイメージキャラクター「与一くん」

来て・見て・笑って



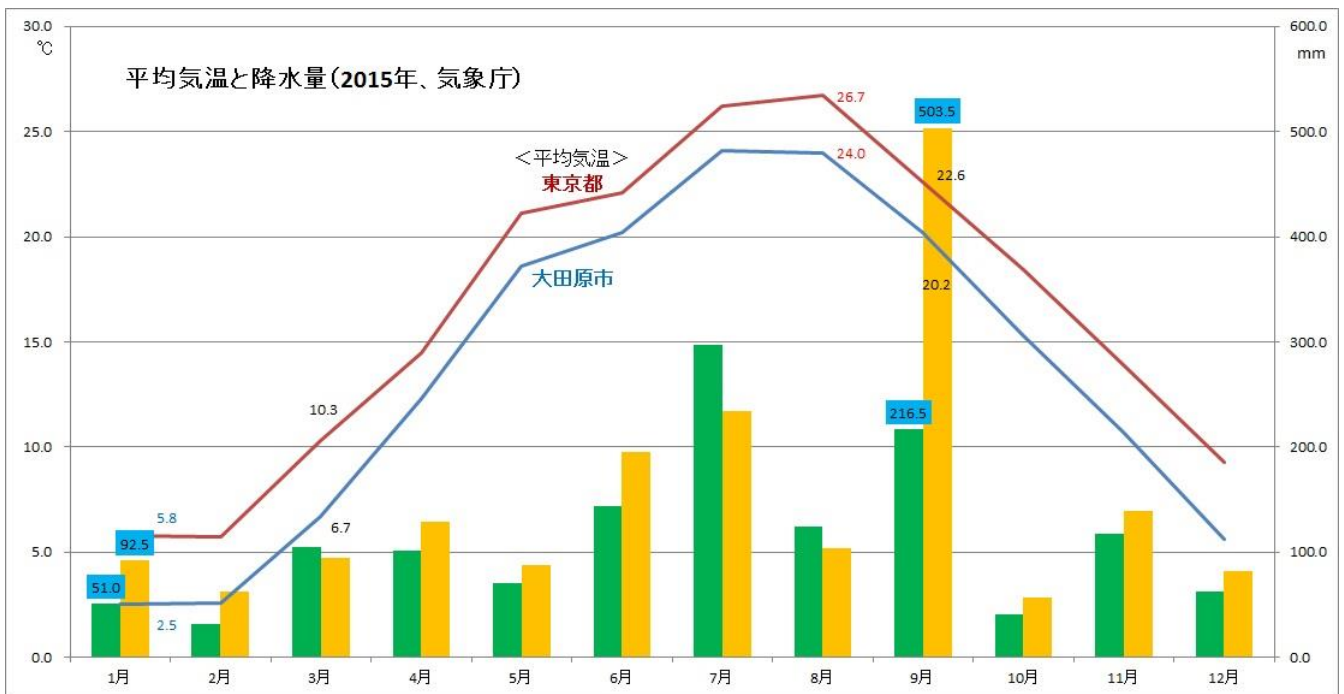
栃木県大田原市

「みんなの笑顔が広がっていく」イメージを表現したロゴ

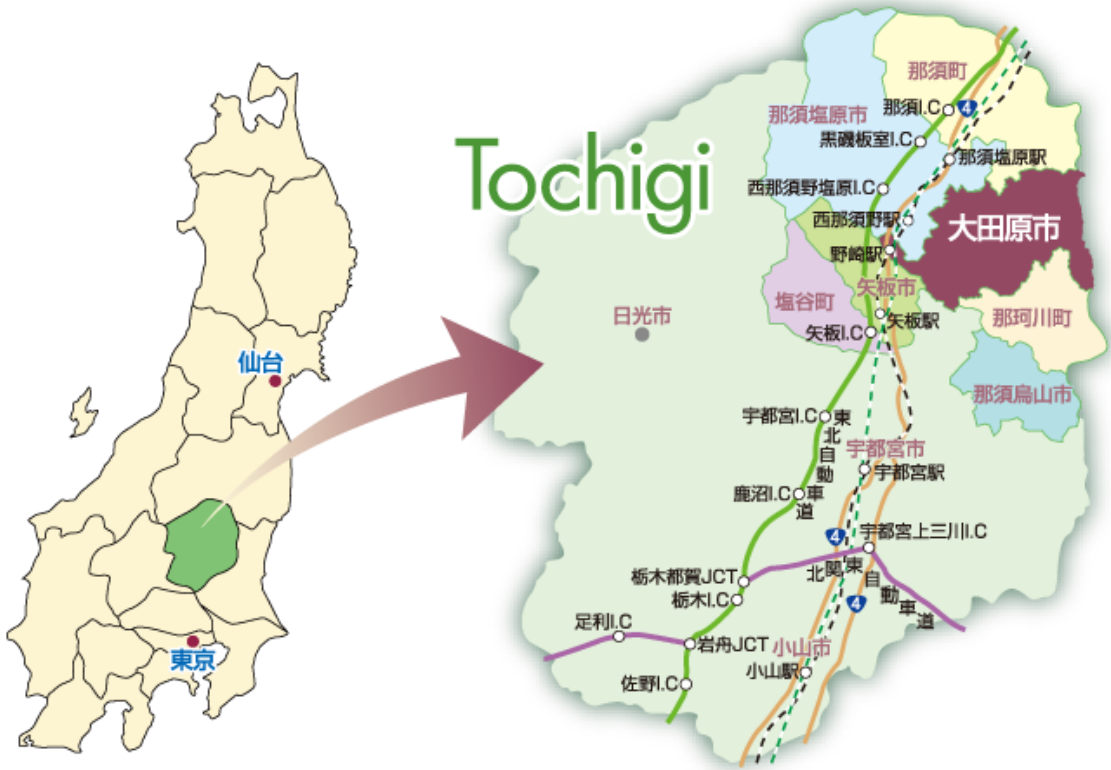
# 大田原市のあらし

- ・面積：354.36km<sup>2</sup>
- ・総人口：73,969人
- ・世帯数：29,540世帯（総人口、世帯数ともに平成31(2019)年1月1日現在）
- ・人口密度（1km<sup>2</sup>あたり）：212.9人（平成27(2015)年国勢調査）
- ・病院：救急病院2件、開業医院30件以上、歯科医院25件
- ・教育・学校：保育園11園、小規模保育園5園、幼稚園2園、認定こども園6園  
小学校20校、中学校8校、高等学校3校
- ・主な高速道路IC：矢板IC（浦和ICから115km）、那須IC（仙台南ICから174km）
- ・主な駅（JR）：野崎駅、西那須野駅、那須塩原駅（東北新幹線停車駅）
- ・主な特産品：米、野菜（ねぎ、アスパラガス、うど、トマトなど）、とうがらし、いちご、梨、  
肉用牛、鮎、地酒（大田原銘酒六つ蔵）、黒羽茶、竹工芸品など
- ・主な景勝地：那須神社(国指定名勝。おくのほそ道の風景地八幡宮)、龍城公園、  
御殿山公園、黒羽城址公園、那珂川、御亭山、羽田沼など
- ・主な観光施設：道の駅那須与一の郷、那須与一伝承館、黒羽芭蕉の館、  
黒羽観光やな、なかがわ水遊園など
- ・主な祭り：屋台まつり、くろばね紫陽花まつり、与一まつり、天狗王国まつりなど
- ・主な国指定文化財：国宝那須国造碑、侍塚古墳、那須神社、大雄寺、竹工芸など

## 平均気温と降水量



# 大田原市へのアクセス



## 東京から片道 最短約90分

東京からは最短で約90分（東北新幹線を利用した場合）。

家賃や生活費の手ごろさ、夏でも過ごしやすい気候など、ONとOFFの充実を求めて、東京へ通勤しながら大田原に住む方も増えています。

## 自動車

〔東北自動車道のご利用〕

- 東京方面から 浦和IC → 矢板IC → 大田原市内まで約20分  
（距離：約115km / 所要時間：約90分）
- 仙台方面から 仙台南IC → 那須IC → 大田原市内まで約30分  
（距離：約174km / 所要時間：約120分）

## 鉄道

〔JR東北新幹線およびJR東北本線のご利用〕

- 東京方面から
  - ・東京駅 → 那須塩原駅（JR東北新幹線） → 車・タクシーで約10分  
（所要時間：約80分）（市営バスも運行しています）
  - ・上野駅 → 西那須野駅（JR東北本線(宇都宮線)） → 車・タクシーで約5分  
（所要時間：約170分）（市営バスも運行しています）
- 仙台方面から
  - ・仙台駅 → 那須塩原駅（JR東北新幹線）  
（所要時間：約60分）





水と緑、豊かな大地。そして四季折々の自然にも恵まれた大田原市。

## 豊かな緑



### 八溝山 (やみぞさん)

江戸時代からスギ・ヒノキの林業が営まれてきた八溝山。山一帯に緑の絨毯が広がります。ここで育った木材は土壌や雨量の条件が適しているため、関東きっての良質な「とちぎ八溝材」として、高い品質が求められる建築用材に使用されています。



### 牧場

大野放牧場では、春から初冬までの8ヶ月間、近隣酪農家や和牛農家の牛が放牧されます。自然をたくさん満喫し、のんびり草を食んでいる風景は牧歌的です。

## 清流



### 一級河川 那珂川・箒川(なかがわ・ほうきがわ)

悠々とした流れは、遠いにしえの人々の息づかいが感じられます。那珂川は、水がきれいなことから、関東の「四万十川」とも呼ばれており、鮎釣りシーズンともなると、数多くの太公望たちでにぎわう鮎釣りのメッカでもあります。箒川は、那須野が原の豊富な伏流水が流れ込み、鮎が遡上する清流です。

春夏秋冬、四季折々の自然のすばらしさを見せてくれる風情は何とも言いがたいものがあります。

- 春 朝もやが立つ風情は、眠りから目覚める息吹を感じさせてくれます。
- 夏 天然の鮎を求め、県内外から大勢の釣り人でにぎわいと活気にあふれます。
- 秋 一面ススキ野原。清らかな水の流れに餌を求めて小鳥たちが飛び交います。
- 冬 那須連山からの吹き下ろしに耐え、凜とした大河をうかがわせます。



## 日本一きれいな星空が見える大田原市

大田原市は、平成10(1998)年冬期、平成12(2000)年冬期、平成13(2001)年夏冬期に、当時の環境庁などによる「全国星空継続観察星がよく見える場所」において、計4回日本一になっています。

## 生物

### ミヤコタナゴ



国指定天然記念物。「市の魚」で、地元では昔からオシャラクブナと呼んでいます。コイ科タナゴ属のわが国固有の種。藻類を主とした雑食性で、1～2年で体長3～4センチメートルに成長し親魚になります。

### 鮎



「年魚」と呼ばれ、1年でその生涯を終えます。9～10月に川で産卵された卵は2週間ほどでふ化し、海へ下ります。そして、翌年の春先まで海の微生物を食べて成長し、また川を上ります(遡上)。海から上ってきた鮎が「天然鮎」です。

### 白鳥



春から夏の間、遠い北国の水辺で卵を産み、子育てをしていたハクチョウたちは、冬が近づくと越冬地を求め約1週間かけて数千キロも南下します。羽田(はんだ)沼へも、毎年約百羽のハクチョウたちと、千数百羽のカモと一緒に3月末頃まで、ゆっくりと一冬を過ごします。

## 植物



### ザゼン草

山中の湿地に生える水芭蕉に似た多年草で、1～2月に葉に先だて高さ10～20センチメートルの仏炎苞(ぶつえんほう)につつまれた花が現われます。



### 水芭蕉

サトイモ科の多年草。湯津上地区の光丸山法輪寺の群生が有名で、20年前に株分けされて以来、大切に育てられ、今では数百株になったとのこと。例年、3月下旬～4月上旬頃が見ごろです



### タシロラン

タシロランはラン科の腐生植物で通常、暖温帯の常緑樹林に生息。5～7月ごろ、20～50センチの花茎を伸ばし白色の花を咲かせる。県版レッドリストで準絶滅危惧に登録されている。



### 磯上の山桜

市北東部にある両郷地区(磯上)の八溝登山口、『一の鳥居』のそばにあります。周囲4.3メートル、高さ17メートル、地上約4メートル。県内でも第一級のヤマザクラの巨樹(推定樹齢300年)です。





雄大な自然に囲まれ、先人の歴史や文化が色濃く残る大田原市。それら教育資源を余すところなく活用して、様々な体験プログラムが開設されています。

## 自然体験

### 循環型農業・乗馬体験 【那須野ヶ原ファーム】



作物の生育に適した地の利を生かし、環境に配慮した循環型農業を実践する那須野ヶ原ファーム。297,000m<sup>2</sup>に及ぶ圃場での農産物生産、ブルーベリーなどの栽培を行っています。小鳥のさえずりや木々の色合いなど、豊かな那須の自然、農業と馬とともにある暮らしが体験できます。

### 魚のつかみ取り・いも掘り 【ポッポ農園】



大田原市片田、湯殿大橋のたもとにある「ポッポ農園」。見渡す限りの緑に囲まれ、近くには那珂川が流れ、自然を満喫できる場所です。農産物直売の他、日本最長レベルのミニSLが走り、夏には魚のつかみ取り、秋にはいも掘りが楽しめます。

### 天然鮎のやな漁 【那珂川】



那珂川の清流を間近に眺めることができる観光やな。市内には2か所の「やな」があります。昔ながらの竹や木を組んだ工法は、手間はかかりますが激しい流れも巧みにいなし、「やな」が設置される初夏には、新鮮な天然の鮎料理を味わうことができます。夏休みを中心にたくさんの方が「やな」を楽しみ、にぎわいます。





## 大田原市ふれあいの丘 シャトー・エスポワール

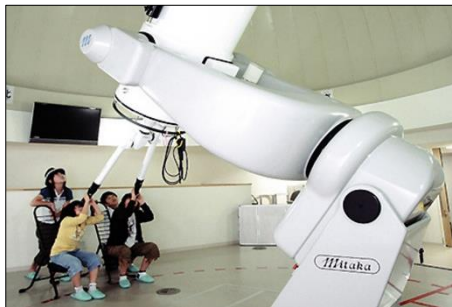
学習及び研修施設が備わった公共の宿です。施設内では陶芸や木工、竹工芸などの作品づくりも体験できます。また、昆虫を中心とした10数万点が展示されている「自然観察館」や県内屈指の65cm天体望遠鏡を備えた「天文館」もあり、子どもから大人まで楽しみながら学べる施設です。  
なお、一般の方も宿泊や体験などで各施設を利用できます。

### 自然観察館 【大田原市ふれあいの丘】



「大田原の豊かな自然の育みを次世代の子どもたちへ引き継ぐ」ことがモットー。身近な昆虫や植物の生態を様々な角度から掘り下げ紹介しています。  
自然とふれあうきっかけをつくることができると、親しみやすい展示を心がけています。

### 天文館 【大田原市ふれあいの丘】



大田原市は、環境省が行う「星空継続観察」において、平成10(1998)年度冬期、12(2000)年度冬期、13(2001)年度夏期・冬期と過去に4回日本一となりました。この日本一きれいな星空が見える大田原市で、子どもから大人まで星空を楽しむことができるよう完成した天文館です。

### なかがわ水遊園



全国最大規模を誇る、淡水魚専門の水族館。見て触れることができる、水と緑とさかなの世界。栃木県なかがわ水遊園は、大田原市佐良土(さらど)の那珂川の畔にある栃木県水産試験場に併設された淡水魚水族館と広々とした公園を備えた施設です。

## アート&クラフト

### 那須野が原ハーモニーホール



大ホール(1194席)と小ホール(399席)では音楽関係を中心として、文化や芸術の様々なイベントが開催されています。  
その他、多目的ホールの「交流ホール」や、アートスペースとしての「第一ギャラリー」、「第二ギャラリー」があり、栃木県北部の文化の拠点になっています。

### 陶芸・木工・竹工芸 【大田原市ふれあいの丘】



初心者からでも楽しむことができる陶芸の「手びねり」が体験でき、焼物づくり、素焼きへの絵付けもできます。  
また、大田原の特産の竹工芸や木工に親むことができます。

## 禅

### プチ修行 【大雄寺】



大雄寺では、本格的な禅堂で心静かに坐る「坐禅」、筆と墨で一字一字丁寧に経文を写す「写経」、などの禅修行を体験することができます。  
お一人からの個人修行から社員研修などの団体修行まで幅広く申し込みが可能です。  
CM「au 三太郎」の撮影も行われた場所です。





### 栃木三鷹唐辛子

大田原市の唐辛子生産は歴史が古く、昭和初期から始まり、生産がピークを迎えるのは戦後の昭和38(1963)年頃です。全盛期には、全国一の生産量で輸出まで行っていた名産でした。

栃木三鷹唐辛子は、昭和30(1955)年頃、大田原市の吉岡食品工業株式会社の吉岡源四郎氏の手によって、八房系品種(唐辛子の品種の一つ)より分離された、大田原を発祥とする唐辛子です。

辛味が強い、色調が良い、形状が揃っている、収穫量が多い、摘み取り・乾燥作業が容易、保存に強い、などの特徴があり、唐辛子の栽培・流通において、とても優れた品種です。



### 大田原銘酒六つ蔵

栃木県で最も多い六つの酒蔵が営む「地酒のまち」。

自然の恵みを生かした日本酒が数多くあります。酒蔵が多い理由は、安全でおいしい水があったからです。那須連山という自然のろ過装置で磨かれた、旨味たっぷりの伏流水が、大田原の優しい味わいの地酒を育みました。

- 池島酒造
- 菊の里酒造
- 天鷹酒造
- 平山酒造店
- 鳳鸞酒造
- 渡邊酒造



大田原銘酒六つ蔵





それぞれの店の自慢の逸品を。

与一逸品物語

## 与一和牛・大田原牛



大田原牛や大田原産黒毛和牛などで、「銘牛の里」として有名な大田原。『与一和牛』は、その大田原産黒毛和牛の中でも貴重な日本食肉格付協会が設定する、15段階の肉質ランクの頂点「A 5ランクの肉」にのみ与えられる商標。『大田原牛』は、その「A 5ランク肉」の中でも、霜降りの度合いを12段階に分けた基準であるB.M.S.がNo.10以上であることが条件となっています。

## 与一逸品物語

大田原中心市街地の商業者の発展を目的として「大田原一店逸品運動」を立ち上げ、勉強会を重ねました。それぞれのお店の「自慢の商品・人・環境」などを研究・創作。その特徴ある「逸品」の価値をより多くの人々にPRし、お店の個性とまちの魅力を高めるために、名称を「与一逸品物語」として平成24(2012)年3月にスタートしました。

## 春香ウド



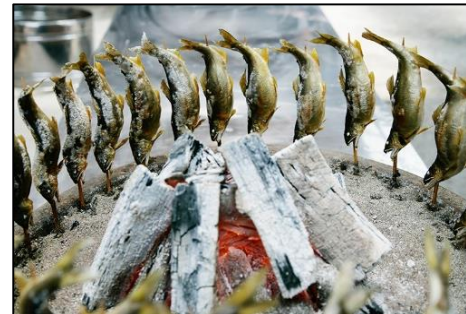
大田原市で作られるうどは、見た目の美しさや味の良さから全国でもトップクラスの評価を受けています。うどは、ウコギ科植物で朝鮮人参やタラボの木の仲間です。中国では漢方薬で利尿剤として利用されます。繊維質が多いため便秘解消の効果も期待でき、美容と健康に良いと言われています。

## 与一スイカ



与一スイカは、佐久山地区で生産されている地域ブランドスイカです。完全露地栽培で、糖度が高く薄皮で、昔ながらのシャリシャリ感が楽しめる歯ごたえが特徴です。

## 天然鮎料理



那須岳山麓を源流とし、太平洋へと注がれる那珂川は、天然鮎の遡上が日本一とつたわれる河川でもあり、多くの人が鮎釣りを楽しむ釣り場として全国で知られています。黒羽(くろばね)の味覚の代表、鮎。那珂川の風物詩、やな。白いしぶきと川面を渡る風の中で味わう鮎料理は格別です。

## 大田原米



大田原市は「大俵」に由来し、その名の通り昔から米を始めとする農業が盛んな地域で、耕種農業や繁殖・肥育、酪農を営む畜産業の農家さんが多くいます。良質な水、肥沃な土壌、そして、農業者一人一人が心を込めて生産しているからです。

## 有機日本酒



天鷹酒造の有機日本酒「天鷹」は、米と麴のみで造ります。その米はすべて日本農林規格(JAS法)に基づいて生産された「有機米」。地域と共にある酒蔵として、できる限り環境に負荷をかけない米づくりを協力農家さんと一緒に進め、豊かで美しい自然を未来の子どもたちへつないでいきたいと考えています。

## 大田原コラボジェラート



大田原の名産とコラボした変わり種ジェラート。甘さのあとからくるピリリとした辛さが印象的な「とうがらしジェラート」や、鮎の甘露煮が入った驚きの「あゆジェラート」は、どれもここでしか食べることができない珍味スイーツです。大田原の味を満喫するなら、ブルーベリーや夏のイチゴ「なつおとめ」など大田原産フルーツを使った王道人気ジェラートと、変わり種ジェラートのダブルカップがオススメです。





## コーヒーの街 大田原

大田原市にたくさん集まっている珈琲店。平成30(2018)年から市内のカフェオーナーの有志が集まり、コーヒーイベントを開催しています。市民が地域に誇りを持つきっかけになりつつあります。



## 複合施設 トコトコ大田原

子育て世代を支援する施設やサービスを提供することにより、親子のふれあい創出、子育ての負担の軽減と子育て環境の充実、子育て世代の文化活動や購買活動などの促進を図るための施設で、ショッピングフロア・子ども未来館・図書館・市民交流センターなどの複合施設となっています。

「あそび」の中から年齢にあった体力・知識・経験を養い、また子どもたちを見守る保護者たちの温かい見守りが、子育て世代の時間の共有となり、地域住民との交流・相談・悩みなどの意見交換の場や子育て共有スペースとして、子育て世代や子どもたちがにぎわうことで中心市街地の活性化と一体化を図ることを目的としています。







## 御亭山(こてやさん)緑地公園

御亭山(標高512.9メートル)山頂からの眺望は素晴らしく、山頂付近には、伝説とロマンを秘めた綾織池(あやおりいけ)があります。また、眼下には、那須野ヶ原の米どころの田園風景、歴史のおもかげを残す家並、地場産の「とちぎ八溝材」の緑の絨毯が広がり、晴れた日には遠く筑波山、富士山を望むことができます。現在は、緑地公園として整備され、市内外の来訪者の憩いの場としてにぎわいを見せています。

## 中央多目的公園



市民の憩いの場や交流の場、イベント会場などとして、大田原市中心市街地の活性化に寄与することを目的に整備されました。また、地震や火災などの災害時に地域の避難場所としても機能するよう、防災倉庫付きトイレ、非常時にかまどとして使用できるベンチ、防火樹林などを備えています。

## 道の駅 那須与一の郷



那須与一公の活躍を紹介する与一伝承館や竹芸品を展示している竹ギャラリー、地場産とれたて農産物・ジェラートなどの直売所、手打ちそばや地元産の食材を使用した自慢の味が楽しめるレストランなどの施設が集まったホットな文化複合アミューズメント施設です。また、大田原産のとうがらし「栃木三鷹」を使用した様々な商品がおススメ(唐揚げやジェラートなど)です。

## 温泉(市内8か所)



泉質はナトリウム-塩化物温泉(アルカリ性低張性高温泉)が中心で、日帰りでも入浴できる温泉もあります。  
〔市営〕湯津上温泉やすらぎの湯、黒羽温泉五峰の湯  
〔民営〕日帰り温泉太陽の湯(大田原温泉ホテル龍城苑)、那須野ヶ原温泉ホテルアオキ、パインズ温泉ホテル大田原、那須野ヶ原ベルビューホテル、与一温泉、佐久山温泉きみのゆ

## まちなか星空観望会



天体望遠鏡を使い、その季節にしか見ることのできない星空をゆったりと観測して楽しむことを目的に、中央多目的公園にて、毎月開催されています。

## 那須スポーツパーク



那須スポーツパークは那須の緑豊かな自然に囲まれた、滞在型スポーツ施設です。14万坪の広大な敷地には、野球場、サッカー場、テニスコート、グラウンド・ゴルフ場などのスポーツ施設やバーベキューガーデン、会議室、宿泊施設も備えています。

## ゴルフ場(市内7か所)



大田原エリアのゴルフ場は、東北自動車道から矢板方面や那須方面へ1時間ほどの距離に多数あります。高低差がなく、草原地帯を思わせるフラットなフェアウェイが多い点が特徴です。なだらかな丘陵コースの中には四季折々の花々や木々が咲き誇り、庭園風の造りのコースで景観も楽しみながらプレーできることも魅力の一つです。



# EVENT お祭り・イベント



## 屋台まつり

江戸時代・大田原神社の例大祭(4月上旬)で、大田原藩のみこしを奉納した7町内の当番町が引き回したのが起源といわれています。花鳥・唐獅子などが精巧な技法で彫りこまれた屋台は見ごたえ十分。9台の屋台が金燈籠で行うブツケ(お囃子の競演)は、祭りのクライマックス。

4月



6月

## 芭蕉の里くろばね紫陽花まつり



黒羽城址公園の約6,000株の紫陽花(あじさい)が咲き誇る6月に「くろばね紫陽花まつり」が開催され、黒羽城の本丸やお堀の斜面に咲く紫陽花は、毎年多くのファンを引き寄せる名所になっています。

まつり期間中は、俳句大会や写真コンテストなどの様々なイベントも開催され、夜間(午後7時~9時)にはライトアップが行われ、夜でも紫陽花を楽しめます。



6月

## 黒羽芭蕉の里全国俳句大会

俳聖松尾芭蕉が「おくのほそ道」紀行中、長期滞在した黒羽の地から新たな俳句文化の発信を目指して、「おくのほそ道」紀行300年にあたる平成元(1989)年度から「黒羽芭蕉の里 全国俳句大会」を毎年開催しています。全国各地から多数の俳句愛好者が集い、名実共に全国俳句大会として定着してきており、俳句を通じた心の交流の輪が広がっております。



8月

## 那須野が原国際芸術シンポジウム



このイベントは、芸術鑑賞の機会を提供して、芸術の美しさ楽しさ、面白さを知っていただき、地域文化の発展に役立てようと始まりました。

平成9(1997)年に「那須野が原彫刻シンポジウム」としてスタートし、その後事業名を改め、平成26(2014)年から「那須野が原国際芸術シンポジウム」の名称で実施しています。旧両郷中学校の校舎に「大田原市芸術文化研究所」を開所し、彫刻、絵画、造形など多彩な芸術家を国内外から招聘し、公開制作、展覧会を実施しています。





## 7月 御亭山TT



御亭山（512.9m）の山頂は緑地公園となっており、那須連山や条件が整えば富士山も望める眺望の良さが魅力です。地元プロロードレースチームの「那須ブラーゼン」の選手がトレーニングに利用し、自転車愛好家が集う人気のスポットでもあります。毎年夏には、自転車愛好家が参加するタイムトライアル形式のヒルクライムレースが開催され、全国から健脚自慢が集います。レースは年齢ごとにカテゴリーが分かれているため、若者から年配者の方まで楽しめる人気の大会です。



## 8月 与一まつり

源平屋島の戦いで扇的を射落とした那須与一公を称えるまつりです。大田原の夏を彩る代表的なイベントで、毎年8月の第1金曜日と土曜日の2日間、金燈籠交差点をメイン会場に行われます。昼の部は勇壮な武者姿の与一武者行列、子どもみこし、各商店会コーナーなどイベントが盛り沢山。武者行列は、甲冑姿の那須与一公をはじめとする勇壮な武将、女官として市内の小学生が扮した子ども武者など約350人が通りを練り歩きます。その他、福原の餅つき唄が披露され、つきあげられた餅が与一公に献上されます。さらに、夜の部の与一踊りはまつり会場全体を使ってあでやかな流し踊りが繰り広げられます。



## 10月 天狗王国まつり



人と自然が調和する湯津上地区において、「住民の活力と地域資源が融合したイベント」を目指し、毎年開催されているイベント。大田原グルメ・逸品物語や花火大会、ちよこつとより道 大田笑（市PRや市物産品などの販売）、フリーマーケット（協力）などが行われます。会場には地元ご当地グルメが多数出展し、夜には花火大会も楽しめます。



## 11月 大田原マラソン大会



大田原マラソン大会は、本市が主催する最大のスポーツイベントで、毎年11月23日（勤労感謝の日）に開催される(公財)日本陸上競技連盟公認大会です。昭和63(1988)年の第1回大会から令和元(2019)年の今年で32回を迎えます。「制限時間4時間」という大変厳しい条件を掲げ、全国のランナーが目標とする大会へと成長してきました。ランナーは、美しい那須連峰を望み、冬の北風、名物「那須おろし」に挑みます。



## 11月 とうがらしフェスタ

とうがらしの普及・宣伝を目的に大田原市産業文化祭と同日開催のフェスタ。会場では、七味唐辛子やラー油を自分好みに調合できたり、とうがらし関連の商品が多数出品されます。



## 12月 芭蕉の里くろばねマラソン大会

芭蕉の里くろばねマラソン大会は、昭和47(1972)年に第1回を開催してから令和元(2019)年で47回を迎える歴史のある大会です。毎年12月下旬に開催され、黒羽運動公園をスタート・フィニッシュとするアップダウンに富んだマラソンコースとなっています。老若男女、親子ペアなど幅広い年齢層の方が参加し楽しめるマラソン大会です。





## 那須神社

仁徳天皇の時代の西暦300年代に創建された名所旧跡です。800年頃、征夷大將軍坂上田村麻呂が応神天皇を祀って八幡宮にしたと伝えられます。その後、地元的那須氏の保護を経て、黒羽城主大関氏の氏神として崇敬されました。那須与一公の奉納した太刀が社宝となっており、寛永19(1642)年建立の楼門が名所です。



## 永代々神楽

那須神社に伝えられている市指定の無形民俗文化財です。平安末期の文治元(1185)年那須与一公が屋島での戦功により那須氏の惣領となり、文治3(1187)年から舞楽を奉納したことに始まります。

## 侍塚古墳【国指定史跡】



那珂川右岸の段丘上に立地し、上侍塚古墳・下侍塚古墳の2基があり、いずれも前方後方墳です。上侍塚古墳は栃木県内の前方後方墳では、足利市の藤本観音山古墳に次いで第2位の大きさを誇ります。下侍塚古墳は上侍塚古墳の北方約800mにあります。

## 流鎗馬(やぶさめ)

毎年、9月に行われる例大祭は、壮厳で、京都から神職や俗人を呼び、舞楽の奉納や、流鎗馬の騎式などを行い、終日神意をなぐさめたと伝えられています。



## 那須国造碑【国宝】



湯津上の笠石神社に祀られている石碑で、文字の刻まれた石の上に笠のように石を載せていることから「笠石」とも呼ばれています。西暦700年に建碑され、約1000年後、当時の水戸藩主徳川光圀が草に埋もれている石碑に堂を作り安置したものです。花崗岩(かこうがん)が用いられ、碑文は19字8行、全152字からなります。





## 松尾芭蕉 滞在の地

松尾芭蕉は、その弟子曾良(そら)を伴い元禄2(1689)年「奥の細道」へと旅立ちました。旧暦4月3日、黒羽地区に到着した芭蕉は、16日までの14日間、13泊14日という「奥の細道」の中で最も長い期間滞在し、黒羽に多くの足跡を残しました。

黒羽の豊かな文化と情緒溢れる景観に強くうたれた芭蕉は、ここで同行の曾良(そら)とともに数多くの句を詠みました。これらの句は、まちの東西に広がる寺社などに句碑として残され、黒羽の四季の移ろいを静かに眺め続けています。

芭蕉の足跡をたどりながら、写真の銅像が立っている芭蕉の館から芭蕉の広場、旧浄法寺邸、大雄寺まで散策し、当時の雰囲気味わうことも出来ます。

## 大田原城と城下町

大田原城は、天文14(1545)年大田原資清(すけきよ)によって築城され、町島水口より移り住み、以来明治4(1871)年の廃藩置県に至る326年間、大田原氏の居城でした。

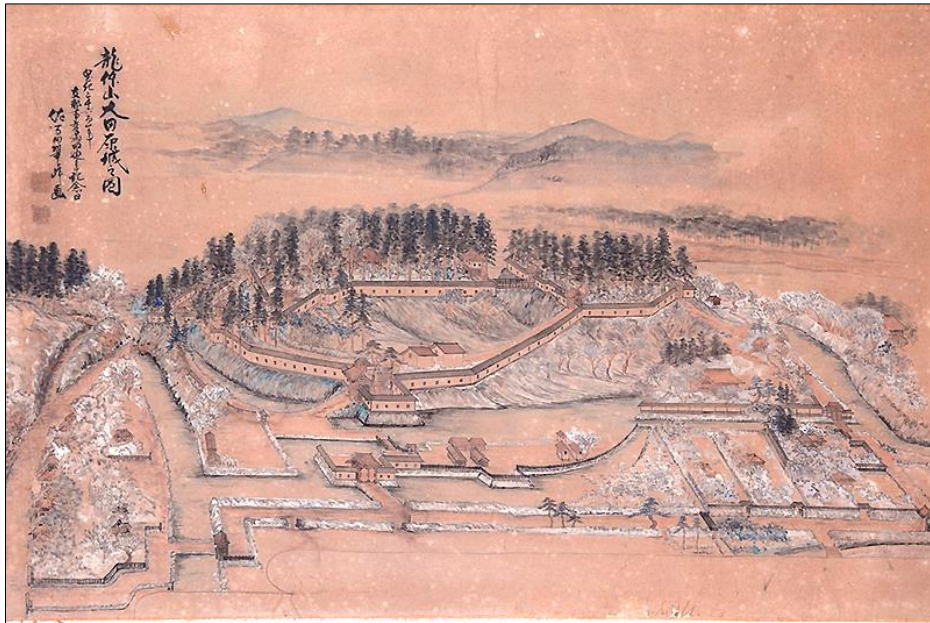
慶長5(1600)年徳川家康は関ヶ原合戦の前、奥羽の情勢からこの地を重視し城の補修を命じました。更に徳川三代將軍家光は、寛永4(1627)年、常時玄米千石を城中に貯蔵させ奥州の鎮護としました。廃藩置県後の明治19(1886)年には、長野県渡辺国武(大蔵大臣)の所有になりましたが、昭和12(1937)年、家督を継いだ渡辺千冬(司法大臣)が大田原町に寄贈したのを受けて公園として整備しました。

本丸跡は龍城公園として、春は桜やつつじが見事に咲き誇ります。また、市街や那須連山も眺められます。

## 佐良土屋号宿



大田原市佐良土(さらど)地区は、光丸山(法輪寺)の門前町として栄えたところで、通りは今も当時の町並みを残しています。「屋号」は、集落内に同じ姓が多い場合に相互に区別するために付けられたものですが、それぞれの家屋敷の場所や商売の名、特長、出身地、家の格、家の主人の名をさすものが多く、今でも「屋号」で呼び合うこともあります。各家の前に「屋号」を掲げた町並は、今なお、宿場町としての風情を感じられます。



## 城鉾舞(しろくわまい)



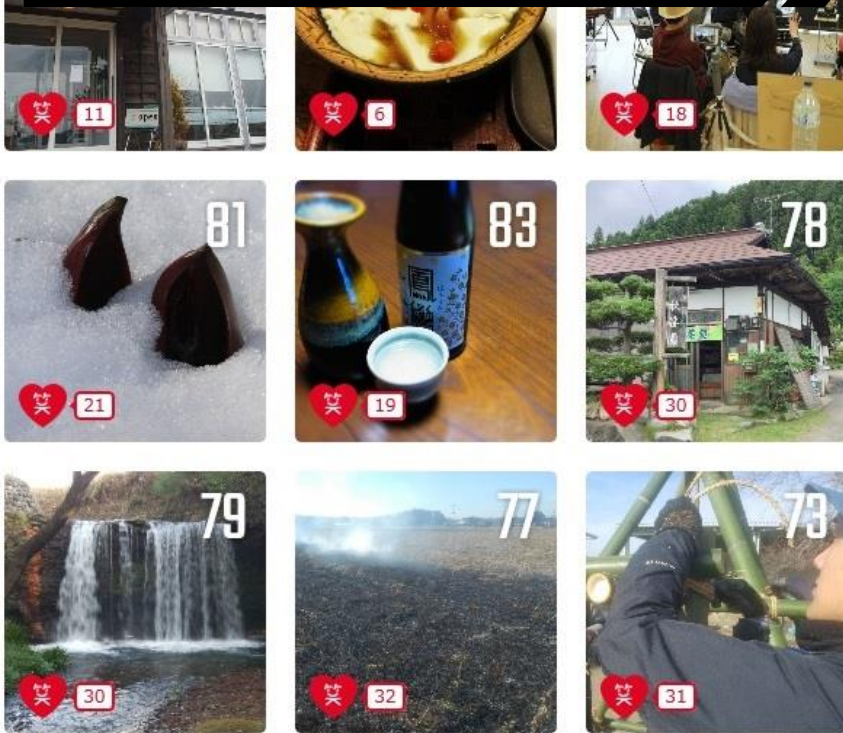
鉾を叩いて踊る田植え踊り系統の民俗芸能です。大田原の城鉾舞の起源については、大田原城築城の際に動員された近郊の農民を慰労する祝宴を大田原資清(すけきよ)(1486~1560)が催した際に、石神村(現大田原市上石上)の農民藤兵衛が、手に持っていた鋤(すきくわ)を持って舞い出し、同席の人々も鋤を叩いて囃したことからよるとされます。

## 宿場町 大田原宿



江戸時代、陸上交通の幹線といべき五街道は、幕府の道中奉行の支配下にありました。宿駅には本陣・問屋場(といやば)を設けて人馬を常備し、公用旅行者の便をはかりました。奥州道中の宿駅には、公用の書状や荷物運搬などのため、人馬がそれぞれ25人・25匹という規定で常備されていました。奥州道中における重要な宿場町であったのが大田原宿です。





「大田“笑”市」プロジェクトを通じて、大田原市の情報を発信しています。

## 大田原市 笑顔の魅力サイト 《大田笑市プロジェクト》

## 大田原市観光協会 《Oh! 大田原》

## 移住・定住サポートセンター



「大田“笑”市」プロジェクトの取組の一つとして、ON(働いている時間)とOFF(休息の時間)のバランスの良さが魅力の大田原市の情報を発信する、魅力発信サイトです。



大田原市観光協会の公式のオフィシャルサイトです。大田原市公認キャラクター「与一くん」が鮎の漁獲量日本一の清流「那珂川」や国宝「那須国造碑」、国重要文化財「那須神社」など観光名所案内や泊まる・日帰り温泉などおすすめスポット情報を紹介しています。



大田原市への移住、定住の相談窓口として、「大田原市移住・定住サポートセンター」を設けています。大田原市への移住をお考えの方はセンターにご相談ください。

### < お問い合わせ先 >

栃木県大田原市役所 総合政策部 政策推進課

TEL : 0287-23-8793 (受付/平日 9:00~17:00)

E-mail : [seisakuuishin@city.ohatawara.tochigi.jp](mailto:seisakuuishin@city.ohatawara.tochigi.jp)



笑顔があふれるまち



栃木県大田原市